

学位論文審査の結果の要旨

高濃度二酸化炭素くん蒸処理によるイチゴの主要害虫に対する 防除技術の実用化に関する研究（小山田浩一）

本研究は、定植前のイチゴ苗に高濃度二酸化炭素くん蒸処理を行い、難防除害虫であるナミハダニをはじめとする、複数の微小害虫による被害の低減を実験室およびイチゴ栽培圃場で検証したものである。その結果、定植前のイチゴ苗を60%の二酸化炭素に30°Cで16時間処理した場合、全ての発育ステージのナミハダニを殺虫できると同時に、ワタアブラムシやオンシツコナジラミの防除にも有効であることが明らかとなった。また、この処理条件はイチゴ苗に悪影響を及ぼさないことも確認された。さらに、高濃度二酸化炭素くん蒸処理を行ったイチゴ栽培圃場では、未処理の圃場に比べて、ナミハダニの発生が大幅に低減されることが示された。以上の成果に基づき、高濃度二酸化炭素ガスくん蒸装置の開発が行われ、イチゴ栽培での実用化につながった。

以上のように、本論文は、これまでにない新たな防除法の開発に貢献するなど実用的な価値が極めて高く、論文の内容、構成および公表論文数も基準を満たしている。よって、本学位論文審査委員会は、全員一致して本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

高濃度二酸化炭素くん蒸処理によるイチゴの主要害虫に対する
防除技術の実用化に関する研究（小山田浩一）

最終試験は、平成 28 年 6 月 24 日に宇都宮大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は小山田浩一氏が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。